はじめに

登録販売者試験の最大の難関は、なんといっても第３章「主な医薬品とその作用」です。その出題範囲は、他の章を圧倒し、覚えることが多すぎるうえに覚えにくく、そのうえ第５章の別表５－１「してはいけないこと」、５－２「相談すること」とも密接に関連しているという、とんでもなく大変なところです。

とはいえ、一般用医薬品の情報提供を任務とする登録販売者にとっては、ココが試験合格のための要所であるばかりか、ココの知識が乏しければ、その任務を果たすこともできません。

そこで、第３章の攻略をすみやかなものとするため、本書を作成しました。

複雑に絡み合った第３章の出題範囲を、①試験対策上、重要な有効成分に関する特記事項、②成分分類に関する事項、③薬効群に関する事項、④漢方の判別等に関する事項、⑤生薬の基原・作用に関する事項の５つに切り分けて構成しています。

しっかりとしたテキストで第３章の出題範囲をひととおり学習した後は、本書で理解のチェック、そして知識の定着を図ってください。

試験合格にグッと近づきます。

令和５年　初夏

團　野　　浩

凡　例

■■■

プソイド■■■

分類	■■■成分

□□□ ★★★ ［Ⅲ］ **プソイド■■■**は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、不眠や神経過敏を生じることがある。

□□□ ★★★ ［Ⅳ］ **プソイド■■■**、その水和物及びそれらの塩類を有効成分として含有する製剤は、「濫用（らんよう）等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品」である。

□□□ ★★★ ［Ⅴ］ 前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は、**プソイド■■■**を「使用しないこと」とされている。

〈理由〉交感神経刺激作用により、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため

★★★　よくでる
★★☆　ふつう
★☆☆　あまりでない

［Ⅲ］　第３章の出題範囲
［Ⅳ］　第４章の出題範囲
［Ⅴ］　第５章の出題範囲

013 エテンザミド

分類	解熱鎮痛成分(サリチル酸系)

□□□ ★★☆ [Ⅲ]

エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが中心となっている他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強いため、作用の仕組みの違いによる相乗効果を期待して、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多い。

□□□ ★★☆ [Ⅲ]

アセトアミノフェン、カフェイン、**エテンザミド**の組合せは、「ACE 処方」と呼ばれる。

□□□ ★★☆ [Ⅲ]

エテンザミドは、水痘(水疱瘡)又はインフルエンザにかかっている 15 歳未満の小児では、使用を避ける。

□□□ ★★☆ [Ⅴ]

水痘(水疱瘡)もしくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15 歳未満)は、**エテンザミド**を使用する前に「相談すること」とされている。

〈理由〉構造が類似しているアスピリンにおいて、ライ症候群の発症との関連性が示唆されており、原則として使用を避ける必要があるため

□□□ ★★☆ [Ⅴ]

妊婦等は、**エテンザミド**を使用する前に「相談すること」とされている。

〈理由〉妊娠末期のラットに投与した実験において、胎児に弱い動脈管の収縮がみられたとの報告があるため

102 ビスマスを含む成分

分類	止瀉成分(収斂成分)

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ **ビスマス**を含む成分は、収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つ。

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ 以下は、**ビスマス**を含む成分である。

- 次没食子酸(じもっしょくしさん)ビスマス
- 次硝酸(じしょうさん)ビスマス

□□□ ★★★ ［Ⅲ］ **ビスマス**を含む成分は、海外において長期連用した場合に精神神経症状(例：不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛)が現れたとの報告があり、1 週間以上継続して使用できない。

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ **ビスマス**を含む成分は、アルコールと一緒に摂取されると、循環血液中への移行が高まって精神神経症状を生じるおそれがあり、服用時の飲酒を避ける。

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ **ビスマス**は、血液－胎盤関門を通過することが知られており、妊婦等では、使用を避けるべきである。

□□□ ★★☆ ［Ⅴ］ 胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人は、**ビスマス**を含む成分を使用する前に「相談すること」とされている。

〈理由〉**ビスマス**の吸収が高まって、血中に移行する量が多くなり、**ビスマス**による精神神経障害等が発現するおそれがあるため

167　鼻炎用内服薬

□□□ ★★☆［Ⅲ］ **鼻炎用内服薬**は、急性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状の緩和を目的としている。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ **鼻炎用内服薬**は、抗ヒスタミン成分に、アドレナリン作動成分や抗コリン成分等を組み合わせて配合したものである。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ 一般用医薬品の**鼻炎用内服薬**は、複数の有効成分が配合されている場合が多く、他のアレルギー用薬(**鼻炎用内服薬**を含む)、抗ヒスタミン成分、アドレナリン作動成分又は抗コリン成分が配合された医薬品と併用すると、同種の成分が重複して、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなる。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ **鼻炎用内服薬**とアレルギー用薬に関し、一般の生活者の中には、「鼻炎の薬と蕁麻疹の薬は影響し合わない」と誤って認識している場合がある。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ **鼻炎用内服薬**と鼻炎用点鼻薬では、同種の成分が重複することもあるが、一般の生活者の中には、「内服薬と外用薬は影響し合わない」と誤って認識している場合がある。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ 鼻炎等のアレルギー症状に対する**鼻炎用内服薬**の使用は、基本的に対症療法である。

□□□ ★★☆［Ⅲ］ 一般用医薬品の**鼻炎用内服薬**は、一時的な症状の緩和に用いられるものであり、長期連用を避ける。

178 漢方の判別

□ □ □ ★★★ [Ⅲ]

かぜに用いる漢方は、以下のとおりである。

- 「**感冒の初期(汗をかいていない)**」は、葛根湯
- 「**ふしぶしが痛く**」とあれば、麻黄湯
- 「**舌に白苔**」とあれば、小柴胡湯
- 「**かぜの中期から後期**」とあれば、柴胡桂枝湯
- 「**うすい水様の痰**」とあれば、小青竜湯
- 「**汗が出るもののかぜの初期**」とあれば、桂枝湯
- 「**かぜの初期、血の道症**」とあれば、香蘇散
- 「**のどのつかえ感**」とあれば、半夏厚朴湯
- 「**痰が切れにくく**」とあれば、麦門冬湯

□ □ □ ★★★ [Ⅲ]

鎮痛に用いる漢方は、以下のとおりである。

- 「**こむらがえり**」とあれば、芍薬甘草湯
- 「**汗が出、手足が冷え**」とあれば、桂枝加朮附湯
- 「**筋肉のぴくつき**」とあれば、桂枝加苓朮附湯
- 「**関節や筋肉のはれ**」とあれば、薏苡仁湯
- 「**いぼ、手足のあれ**」とあれば、麻杏薏甘湯
- 「**ときにしびれ**」とあれば、疎経活血湯
- 「**冷え**」「**冷え**」「**冷え症**」とあれば、当帰四逆加呉茱萸生姜湯
- 「**慢性頭痛**」とあれば、釣藤散
- 「**しゃっくり**」とあれば、呉茱萸湯

187 種子の生薬

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ キョウニンは、バラ科のホンアンズ、アンズ等の**種子**を基原とする。

□□□ ★☆☆ ［Ⅲ］ ケツメイシは、マメ科のエビスグサ又は*Cassia tora* Linnéの**種子**を基原とする。

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ ケンゴシは、ヒルガオ科のアサガオの**種子**を基原とする。

□□□ ★★☆ ［Ⅲ］ サンソウニンは、クロウメモドキ科のサネブトナツメの**種子**を基原とする。

□□□ ★☆☆ ［Ⅲ］ シャゼンシは、オオバコ科のオオバコの**種子**を基原とする。

□□□ ★☆☆ ［Ⅲ］ セイヨウトチノミは、トチノキ科のセイヨウトチノキ(マロニエ)の**種子**を基原とする。

□□□ ★☆☆ ［Ⅲ］ ヒマシ油は、トウダイグサ科のトウゴマの**種子**(ヒマシ)を圧搾して得られた脂肪油である。

□□□ ★☆☆ ［Ⅲ］ プランタゴ・オバタは、オオバコ科のプランタゴ・オバタの**種子**又は種皮を基原とする。

□□□ ★★★ ［Ⅲ］ ヨクイニンは、イネ科のハトムギの種皮を除いた**種子**を基原とする。